

社会福祉法人京都老人福祉協会



ハートで
ぬくもりと安心を
お届けします

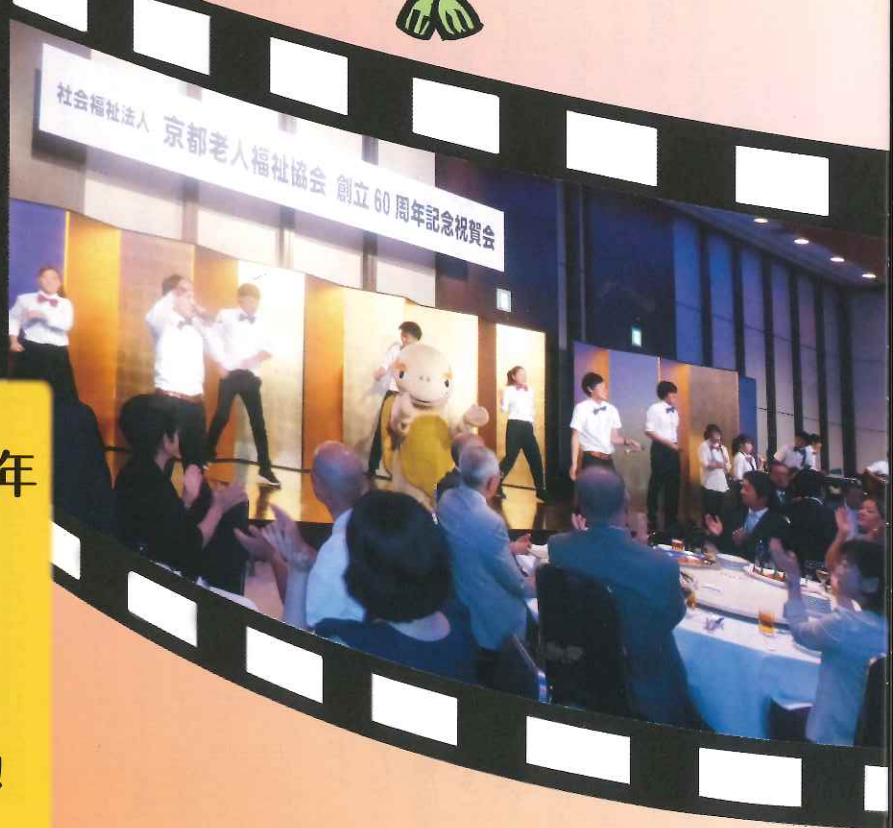
さくらだより

第43号

2017年10月15日



kyo-ro 100+



特集

京都老人福祉協会 創立60周年

- サービス
なないろってどんなところ？
- テーマ 福祉×防災
福祉避難所を知っていますか？
- FREE フリー
夢のメッセージ
- 事業
はじめまして！“ぱとな”です！！
- 事業所リレーコラム ●編集後記

避難所などの地図記号



福祉避難所はすぐに開設できるものではありません!

京都では発災後3日目以降に開設する事を基本としています。しかし、一次避難所としても開放する所もあるため、福祉避難所として準備がなされないこともあります。

京都老人福祉協会の福祉避難所

- ・京都老人ホーム
(特養・短期・デイサービス・養護)
- ・板橋の町家ほっこり
- ・深草センターほっこり
- ・稲荷の家ほっこり
- ・小栗栖の家ほっこり
- ・醍醐の家ほっこり

福祉×防災 避難所を 知っていますか?

阪神淡路大震災・東日本大震災・熊本地震など、近年災害のニュースを聞かない日はない日本。これらの災害により避難してこられた重度の障がい者や介護を要する人のケアが課題となり、これらの要配慮者への配慮の必要性が謳われてきました。そこで、福祉避難所の必要性が考えられています。

内閣府から「災害時要配慮者の避難支援ガイドライン」が出されたことを受けて、地域のバリアフリー施設を福祉避難所として指定する動きや、自治体と特別養護老人ホームなどの福祉施設の間で福祉協定を結ぶケースが増えています。福祉協定を結んでいるところの多くは福祉施設で、特別養護老人ホームが大半を占めています。

災害時には、地域の人たちの協力が不可欠です。もし、避難が必要となった時、地域の方が高齢者などの要配慮者を知っている事で、避難所にいないという事に気付くことができます。そして、救助の要請をするなどし、命が助かるきっかけに繋がります。そのため、近所の方や要配慮者の方との日々の関わり、コミュニケーションがとても大切になってきます。そして、日頃の地域行事や防災対策・避難訓練に参加する事で防災意識も高まっていくのではないのでしょうか。

京都老人ホームも福祉避難所として協定を結んでいます。災害時には、バリアフリーなどの充実した設備を提供すると共に、地域の方との繋がりを大切にしていきます。

福祉避難所とは

学校や公民館などの、一次避難所で過ごすことが困難で、特別な支援が必要な高齢者や障がい者、妊産婦などの要配慮者に向けて設けられた二次避難所の事をいいます。避難所にいったん避難した後、市町村が必要と判断したら開設されます。



こんなところで
あそんでいます!



発達のアプローチなどを抱える就学前の児童を対象として、5名程度のグループであそびを通じた療育を実施しています。職員が子どもの世界を共有し、個別で好きなあそびを楽しみむこと、小さな集団で同じあそびを通して他児や大人との関わりを楽しむことを組み合わせています。保護者支援としては、保護者の気づきを大切に、ともに子どもの成長を喜び合えるよう随時個別面談を行っています。通園先や家庭との連絡をとり、それぞれの発達段階に合わせて、丁寧な発達支援を継続することをめざします。

療育って何…?
療育とは「子どもが自発的にがんばるための土台づくり」と言われます。「やらされる」ことではなく、「楽しいな、できてうれしいうれしいな、もともとやっていたいな」という感覚が子どもたちの発達を促す原動力になると考えられています。その土台作りのために私たちは、次の3つのことを大切にしています。

- ①他者にしっかりと気持ちを受け止めてもらえること
- ②達成感を得たり、自信をつけたりすること
- ③人と関わる心地よさを感じることに

なないろQ&A

Q 大切にしていること

- ☆子どもの気持ちや世界を共有して、職員が一緒にあそびます。
- ☆得意なこと、好きなことから「したい」「やってみたい」の気持ちを広げます。
- ☆「できた!」「みてみて!」を大切に、自分に対する肯定的な感情を育てます。
- ☆大人やお友だちとあそぶ楽しさをたくさん感じられるような関わりをします。
- ☆保護者の気づきを大切に、共に子どもの成長を喜び合いたいと思います。
- ☆保育園・幼稚園・地域・小学校・関係機関等と連携します。

Q どんなあそびをしているの?

- ☆10分~15分程度の簡単なルールがあるあそびや絵本の読み聞かせ、運動あそびなど、みんなで楽しみます。
 - ☆子どもが思いついたあそびや好きなあそびを好きな場所で楽しみます。
 - ☆公園で虫とりをしたり、遊具であそぶこともあります。
- ※グループごとの発達課題により異なるので、提案するあそびを考えています。

Q なぜ好きなあそびが中心なのか?

幼児期に自我が誕生します。充実した自我をもつことにより自分自身を励ましたり、自分を抑えたりする心の機能の獲得(気持ちのコントロール)がなされます。

子どもの課題を捉え、意図やねらいをもって、子どもたちの好きなあそびを一緒に楽しむことが望ましいと考えています。子どもたちの自由な発想や好きなことを通すと、楽しさや嬉しさ、または達成感や成功体験が生まれます。

Q 「なないろ」を通じて伝えたいこと

子育ての悩みや困っていることなど、子どもだけではなく、家庭や地域、職員と過ごしやすい環境を一緒に考えていきたいと思います。

保護者の方が児童福祉センター、または保健センター、児童相談所に相談していただく、子どものように応じて地域の児童療育センターを紹介してもらえます。

子育てに不安などを感じることがありましたら、お気軽にお問合せください。

児童福祉センター
TEL 075・801・9182



おぐりすセンター
平成19年開設



まちかど相談スポット北部
平成18年開設



板橋の町家ほっこり
平成18年開設



醍醐の家ほっこり
平成14年開設



深草センター
平成13年開設



東高瀬川センター
平成11年開設



春日丘センター
平成9年開設



京都老人ホーム
昭和32年開設

ではないでしょうか。
想定されていなかった時代。5年後、10年後、30年後、そして次に来る60年後。これから私たちが歩んでいく道を、想像力を持ってどう見通せるか。考える力が試されていると思っています。

地域の中で見られる、空き家の問題、生活の困窮、引きこもり、希望を持った生き方ができない若者たち……。私たちは、ちゃんと見ようと思わなければ見逃してしまいそうな課題を積極的に見つけ、早く対応していくことをめざしています。

とはいえ、それにはみんなで実際に考えて行く場が必要です。信頼と愛のある、穏やかな人間関係、仲間づくりの中でしか創造性を発揮できる人間は育たないと考えています。

私たちは今「働き方改革」を進めています。それは、職員が未来について想像力をもって考えていくための環境づくりにつながると思っています。職員には自分の生き方、生活、暮らしも大事にしてほしいと願っています。

人間の持つ力。誰もが強さとしなやかさを持っています。私たちは福祉サービスをご利用くださるみなさまを決して弱く守ってあげなければいけない存在だと考えています。全体的な方の生き方に共感しています。私たちは誰もが共に手を携え、未来に生きて行く存在です。

未来のことを話すと暗い部分が目が行きがちです。しかし、私たちはたとえ暗い部分の多い時代だとしても生きて行けるし、また生きて行かなければいけません。未来の見えない時代だからこそ、明るく進もうではありませんか。

京都老人福祉協会はこれからも地域のみなさまと時代の声にこたえ、みなさまと一緒に未来へ歩んでまいります。

していききました。お正月にお餅を食べたい利用者さんにどうやって食べて頂くかというチャレンジを思い出します。相談員、介護職員、そして私たち看護職員が知恵を出し合いました。何年にもわたるチャレンジでした。思うような結果に至らないこともありましたが、しかし、だからこそ、お餅を食べられた利用者さんの笑顔が忘れられません。

今の「働き方改革」に絡めて、法人の良き伝統や風土について触れたいと思います。私は子育て中の職員によく「仕事の代わりはいても、母親の代わりはいないのよ」と声をかけることがあります。「しんどい仕事だけど、楽しく働きたい」多くの職員が思ってきたことだと思います。それをさせてくれたのが京都老人福祉協会でした。

法人は私が入職した頃と比べ、とても大きく変わりました。一人ひとりの職員の名前はとも覚えてきません。しかし、何かに取り組もうとしたとき、私が名前を知らない職員でも共鳴し協力してくれることがありました。前向きなチャレンジにはきちんとフォローが集まる。こんな良い風土は継続してほしいものだと思います。

そして、かつて多くの職員にはいい意味で「適当」、もつとくだけで言え「いい加減」さがあったように思います。決して手を抜くという意味ではありません。何か取り組む時、きっちり事前に決めごとをしなくても、状況を見て仲間と調和し、臨機応変にやり遂げる力があつたのです。これからの職員にも、そんな柔軟さや強さ、明るさを受け継いでほしいと思います。そして「京都老人福祉協会に勤めて良かった」と若い人に言ってもらえる職場であつてほしいと願っています。



伏見センター
平成28年開設



藤森センターほっこり
平成26年開設



京都市児童教育センター「なないろ」
平成25年開設



墨染つどいの広場
平成24年開設



うづらこども園
平成21年事業継承



まちかど相談スポット中部
平成21年開設



小栗栖の家ほっこり
平成21年開設



稲荷の家ほっこり
平成19年開設

特集 京都老人福祉協会創立60周年

京都老人福祉協会は本年、創立から60周年を迎えました。長い年月、みなさまに支えて頂いたことへの感謝を込めて、理事長 三代修と、長年当法人に勤務している職員である板橋の町家ほっこり 西本房子がみなさまにご挨拶を致します。

「未来を見つめて」



京都老人福祉協会 理事長 三代 修

京都老人福祉協会はお陰様で創立60周年を迎えました。60年という長い間、たくさんのおみなさまに支えられ、私たちの法人はここまで育つことができました。職員一同、心よりお礼申し上げます。

さて、60年前に今の私たちが置かれている状況を想像できたでしょうか？60年前の1957（昭和32）年、歴史的に見ると日本は戦争を終え、高度経済成長が始まる直前ぐらいの時期でした。私たちの法人はもとより、日本の福祉は国中に広く見られた「貧困」にどうこたえていくのかという大きな課題を背負っていました。そこが私たちの出発点でした。

そして今、私たちは、日本が豊かになるとともに進行してきた少子高齢社会にどう対応していくかという大きな課題に取り組み続けています。これまでの少子高齢化は60年前には誰にも想像できるものではなかったの

「京都老人福祉協会の今昔」



板橋の町家ほっこり 西本 房子

私は1981（昭和56）年10月に京都老人福祉協会京都老人ホーム医務室に看護職員として入職しました。

その頃の京都老人ホームは時代背景もあり、全体的にみると今より利用者さんがお元気の時代でした。演芸会などの行事でもご利用者さん主導で、多くの場合、私たち職員が見せて頂く立場だったのです。芸達者なご利用者さんもおられましたので、演芸会などに自分のこどもを連れて行くのが楽しみでした。思えば、のんびりした時間が流れていた時代だったのかもしれない。

ただ、日々の利用者さんの支援やケアについて「なぜこの方法がとられているのだろう？」「こう変えられないだろうか？」と感じることもありました。時の流れと共に、新しい仲間が加わり、従来のメンバーと話し合いながら少しずつ新しいチャレンジを

夢のメッセージ

目覚めた時に「今日夢見なかったな〜」や「すごく変な夢を見た」といった感覚を覚えることはあると思いますが、日々の生活のストレスが夢に出てくることがありませんか？

夢の内容はその時の精神状態や考えていることが現れることも多いと思います。また、どんな夢だったかによって自分がどんな状態か、その夢が吉か凶かを知ることができます。

心理学的には、精神的なストレスや不安・心配ごとを抱えていると、夢を見やすい状態になります。「同じ夢なら、良い夢でいい気分させて！」と思いますが、ストレスの多いときはなぜだか悪夢になりがちです。

夢占いってご存じですか？

夢占いとは、夢に無意識領域からのメッセージが隠されているとして、今の心理状態や近い未来に起こる出来事を判断する方法です。どんな内容があるのかいくつか例を挙げてみます。

排泄の夢

不快に感じない場合には金運アップを暗示。
気持ちよく排便する夢は大きな富を得ることを暗示する大吉夢であり、排泄物が溢れて不快である夢はあなたが抱えている問題や自分を現しています。

他の人がいる夢

知人であれば、その人との人間関係を指しているかもしれません。
恋人の夢は多くの場合、さみしいと感じる自分の一面を現しているようです。

食べる夢

食べる夢は何らかの欲求を満足させたいことを暗示しています。
権力欲や名誉などの満たされない精神的欲求を現しています。

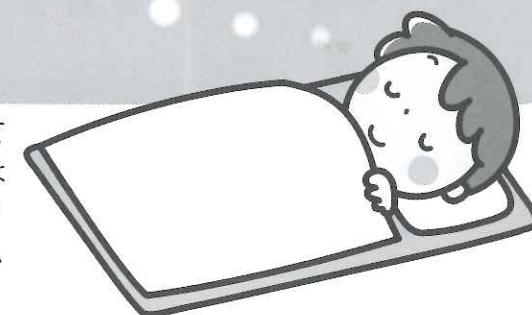
落ちる夢

ゆっくりと気持ち良く落ちていく夢は、心の平静や何かの重荷を肩から下ろしたという意味を持っています。
高いところから凄スピードで落下する夢は、普段の生活が自分の手に負えないと感じている現れです。

空を飛ぶ夢

空高く飛んでいるのであれば自信に満ちて、自分の目標に向かっていくという意味で、逆に地面スレスレのところを飛んでいる、または何かにひっかかってしまうようであれば、人生が思い通りに行っていないという気持ちの現れかもしれません。

このように私たちの見る夢には個人的なメッセージが込められています。嫌な夢だからと言ってそれが悪い意味であるという事ではありません。ただ夢だからと済ませず、なぜあんな夢を見たのか？と夢の不思議を夢占いで謎解いてみてはどうでしょう？そこには、あなたのココロや未来が隠されているかもしれません。



事業所リレーコラム

もっと、ずっと、この町で
頼っていただけ、心休まる居場所
春日丘センター ショートステイ 相談員 岡田 謙一

私が所属している春日丘センターは居宅、デイサービス、ショートステイ、厨房があります。私はショートステイの相談員をしています。相談員をしていると当然さまざまなケースに関わることがあります。今回さまざまなケースに対して春日丘センターに4つの部署があることが如何に強みなのかをお知らせいたします。

介護保険サービスについての問い合わせがあれば、すぐに居宅と連携して返答することができます。デイサービス、ショートステイの利用者さんから食事の問い合わせ（カロリー制限や禁止食等）があれば、厨房と連携することで早急に、より柔軟な対応が可能となります。デイサービスの行事（夏祭り等）にショートステイの利用者さんが

参加することができます。デイサービス利用時に急な体調不良（独居の方は特に不安感強くなります）や家族の急な用事があればショートステイに早急・柔軟に繋ぐことができます。また4つの部署が連携して急な職員の休み等に対しても協力し対応しております。

誰もが馴染みの場所です。という想いがあるかと思えます。1つの場所でさまざまな事ができることは働く側としても大きな強みです。何よりご利用される方にとって大きな安心感になるかと思えます。何か困りごと等あれば利用者さんに馴染みの場所として春日丘を頼っていただける、心が休まる居場所を職員一同が協力して築いていきたいと思えます。

■ 編集後記 ■

私が広報委員になり、一年半がたちました。委員会に入るまでは、記事が出来上がるまでの大変さを知りませんでした。一つの記事を作成するうえで、読み手の立場になりながら、伝え方やレイアウト方法を考えています。悩む事もありますが、ペアの方と一緒に頑張ることで、出来上がりを手にするとやはり自然と笑みがこぼれ、嬉しく感じます。これからもよろしくお願い致します。

広報委員 山村 好美

お問い合わせ先 TEL 075・641・6625 担当：宮村 詳しくは担当までご連絡ください。

社会福祉法人 京都老人福祉協会
60周年記念講演会
日時 1月8日 (月祝)
2018年 14:00~15:30 (開場 13:30)
開演 14:00 (予定)
会場 京都市呉竹文化センター ホール

講師 金澤泰子
講演テーマ 共に生きる
～翔子の子育てから学んだこと～

金澤翔子 書道パフォーマンス (席上揮毫)

14:00~ 開会・理事長挨拶
14:05~ 翔子氏 揮毫
14:25~ 泰子氏 講演
15:15~ 質疑応答
15:30 閉会

参加費：無料
定員：600人
締め切り 12月10日(日)
お問い合わせ先 TEL 075・641・6625
60thanniversary@kyorin.or.jp

60周年記念講演会のご案内

はじめまして！



です!!

“ばとな”立ち上げに伴い、地域にお住まいの方々の困り事や、買物に苦労されている方々の問題を解消しつつ、当法人を大亀谷の拠点として構え、さらなるニーズや、要望に応え、地域の交流の場とし、地域活性化・循環をめざしています。大亀谷をより住みやすい町へと発展するひとつのツールとしてぱっと解決してくれるパートナー、“ばとな”が誕生しました。

活動紹介

はとなの未来予想



① “ぱとな” お困り事支援

自分ではできない。でも専門家に頼むほどでもない。そんなお困りごとを気軽に依頼できる地域の何でも屋さん。それが“ぱとな”です。利用者さんとの繋がりを大切に、昔の良き時代の世話やきご近所さんのような存在になれたらと思います。

将来的にはご近所同士が自発的に地域を地域で見守れるサービスの仲介役として“ばとな”が関わっていけるよう地域の循環を意識した活動を目指しています。

②買物難民支援

現状、大亀谷地域は、深草方面、六地藏方面のどちらかに下りていかなければ、日々の買物はできません。コンビニが一軒ありますが、すべてをカバーすることは出来ないでしょう。また重い物や、たくさんの品物を一度に持ち帰ることも大変です。そこで、地域のパートナー“ばとな”でできる事はないか？ 移動販売？ 宅配サービス？ どんなサービスが必要なのか？ 地域にお住まいの方々の目線から現在思考中です。高齢の方々だけでなく、子育て中のご家庭なども視野に入れ、文字通り誰もが、利用できるそんなサービスをめざしていきます。

日常生活のトータルサポートを目指して

どんな形であれ、一人でも多くの方々に“ぱとな”
をご利用いただき、皆様の日々の生活を少しでも快適
に過ごせるようにお手伝いしていききたいと思います。

最終的には、地域の循環を促す発信者であり、受信者であり、消費者である拠点を目指し、小さな循環を繋ぎ合わせ、より大きな循環を産み出す存在をめざします。

伏見区 限定

新しい
“サービス”
 始めました
Patona
 もっと素敵な毎日を
 ~Your Partner~

“ぱっ”と、お電話
“ぱっ”と、ご相談
“ぱっ”と、お見積り
“ぱっ”と、“解決”

075-641-6622

何でも一度 “ご相談” 下さい。

京都老人ホーム 介護士 24時間体制

伏見区 限定

ぱとな Patona
 あなたの暮らしの
 ~Your Partner~

お借りこと
 何でも “ご相談”
 下さい！！

家事代行 **お庭の手入れ**
家具移動 **模様替え**

簡単な大工仕事
季節もの入れ替え

※ 入居し、内見に来た後であり、お申し込みから、お申し込みの日の60日前までです。

家事代行・軽作業
 ※ 材料運搬はご家族様となります。
 ・電機付け
 ・代敷
 ・郵便物回収・投函
 ・花水やり

※ その他上記に準ずる軽作業
 5分単位 1時間 **一般価格 ￥300**
 京都老人ホーム **￥200**
 24時間体制

**スタッフ名付た！1時間
 一般価格 ￥2,500**
￥2,000

京都老人ホーム
 〒612-0001 京都市伏見区南坊門町1-1-1
 075-641-6622

※ 特別の
 ・暮らし
 ・お庭のお手入れ
 ・タンス整理
 ・清掃等
 ※ 上記以外のご要望は
 ご相談ください。

京都老人ホーム
 何れも24時間体制 介護士 24時間体制

075-641-6622

皆様、是非ごひいきに!! “ぱとな”をよろしく願いたしますm()m